

# いっぺいといっぱく Vol.47



市長は長久手をどんなまちにしたいか、そのために何に取り組もうとしているのか。その想いを市長の語り口でお伝えします。みなさんと語り合うように、一緒に未来の長久手のことを考えてみましょう。また、市HP【[によぜがもん](#)】もぜひご覧ください。  
[市HPのトップページから「[によぜがもん](#)」をクリック。]



今月号で紹介した総合計画策定キックオフパーティでの市長あいさつを抜粋して紹介します(全文は市HP「[によぜがもん](#)」から読むことができます)。

## 総合計画を多くの人で作り上げることは 次世代のための取り組みでもある

今までの日本の社会は、目的や目標に対して、早く、効率的に行うために、専門家を中心に少人数で進めてきました。反対に、いろいろな人の意見を聞き、互いを認め合って、それを切り捨てずにやっていくのは、本当に大変なことですが、これからの日本において求められていることだと思います。

大勢が集まって、違う意見を取り入れようとすると混乱するでしょうし、上手くいかないこともあるでしょう。しかし、上手くいかないことを、みんなでどうまとめていくか挑戦することは、実は、将来の子ども達のためでもあるのです。

総合計画は10年後の長久手市を考えることです。その総合計画を使って、今、市民同士が知り合い、悩み、苦しみ、みんなでまちのことを考える経験を積んでいけば、30年後、50年後の次の世代には、みんなが互いを知っている長久手市にすることができます。みんなが互いに知り合いになれば、お互いに助け合うことができます。大変でも、今、私たちがやらなければ、結局、その苦しみを子どもや孫の世代に押し付けることになるのです。

既に人口が減少しているまちでは、隣近所で助け合うまちづくりが行われています。長久手市は本当に恵まれたところで、困り事は、隣近所に頼むというわずらわしいことをしなくても、お金で解決できることがたくさんあります。しかし、いつまでも、こうした状態が続くとは限りません。

便利で快適な長久手市といえども、30年後、50年後を見据え、今からわずらわしいことを積み重ねる過程を大切にするまちづくりを進めていく必要があるのです。敢えて時間が掛かっても、まず、市民同士が知り合うことから始めることが、これからの新しい時代には必要だと思います。

長久手市の将来を話し合うために、みなさんには、仲間を誘っていただいて、ちょっと苦手だなあという人にも声を掛けていただいて、人口の2割くらいの人には関わってほしいと思っています。

大変なことですが、一緒に考えてもらって、次の世代に誇れるものを作っていきます。



キックオフパーティーの最後に、記念撮影!

24時間 365日受付

長久手市地域見守り安心ほっとライン

0561-63-5556

※先月号に掲載の電話番号に誤りがありました。正しくはこちらの番号です。



### 表紙の写真もう一枚

児童館を身近に感じてもらおうと、市内4会場で「児童館まつり」が開催されました。普段児童館を利用している子どもたちを中心に企画運営に携った「子どもスタッフ」をはじめ、231人のボランティアが参加しました。会場は楽しい雰囲気に包まれていました。

